



広島県立呉三津田高校
 広島県呉市 ▶ 1907年呉市立呉中学校として開校。1949年広島県立三津田高校発足、1968年現高校名に改称
 ▶ 全日制/定時制。いずれも男女共学。生徒数計601人
 ▶ 国立教育政策研究所の研究指定校(2013年度～)、広島県の探究コアカスール指定校(2015～17年度)
 ▶ 大学合格実績：国公立/123人 私立/早稲田、慶應義塾、同志社、立命館、安田女子、広島国際、広島修道 他(2019年)

学びのプログラム

教育目標 呉から世界へ。世界から呉へ。グローバル社会のリーダーにして、地域創生のために、課題を発見し、協働で答えを作り出すことのできる人材の育成

総合的な探究の時間

[La Gaya Scienza a Mitsuta] *3

3年次 自己実現

～社会の一員として私はどう生きるか～

- ディベート ● パネルディスカッション
- 詩のボクシング *4
- 「社会の中の私」(小論文作成)

2年次 自己の相対化

～私を育んだ社会を知る～

- 詩のボクシング ● 社会探究PBL
- シンガポール研修旅行
- キャリア探究(志望理由書)

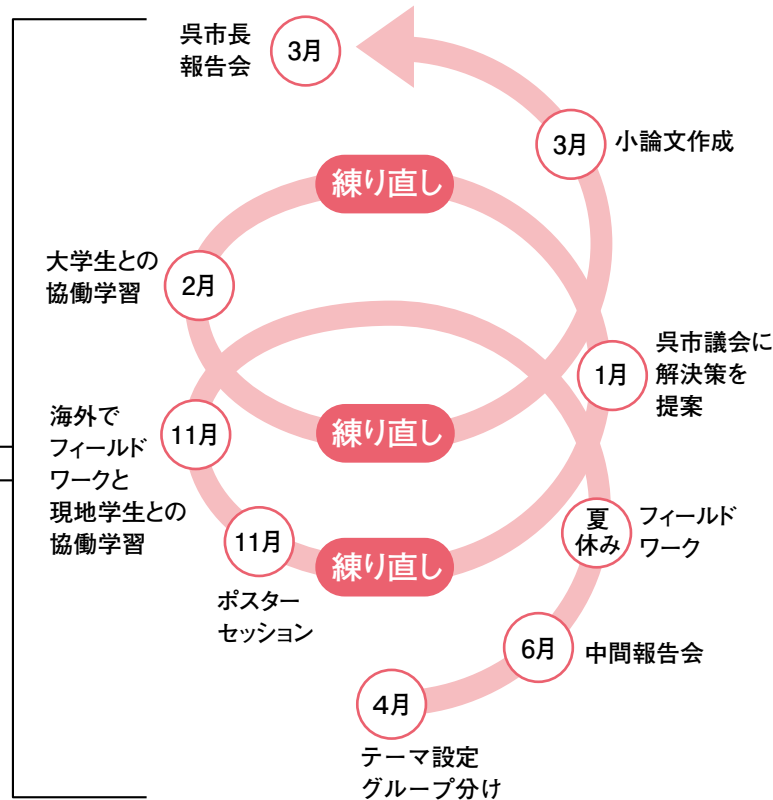
1年次 主体的な自己

～私の興味関心を知る～

- 切り抜き新聞 ● 詩のボクシング
- 学部学科研究 ● 読書会
- ディベート

*3 フランス南部で用いられていたオック語で「三津田ヶ丘の悦ばしき知」の意味
 *4 自作の詩の朗読で勝敗を競う「声と言葉の格闘技」

社会探究PBLの流れ(例)



思考力と主体性を備えたグローバル人材育成

広島県立呉三津田高校

約10年前から、先んじて「思考力」「主体性」の育成を開始。さらに学校の教育目標を具体的な資質・能力に落とし込み、地域探究活動で培う。

教員の経験知を集めて 思考力をゼロから定義

本校は地域の進学校です。これまで難関大学合格をめざして教育を行ってきた中で、選択式の問題はできて論述式の問題には対応できない生徒がめだつようになりました。そこで、約10年前から「思考力」の育成を重視した教育に取り組んでいます。

しかし、そもそも「思考力」の定義はあいまいです。育成方法についても先行事例はありません。そこで各教員が思う「思考力を問う問題」を定期テストで出題し、実施後に最も優れている問題を教科ごとに持ち寄るなど試行錯誤しながら、思考力の本質を探ってきました。2015年度にようやく教科別の「思考力の定義」が完成。これを基に採点基準となるルーブリックを作成し、生徒にも

公開しました。

授業も同じく変えています。思考力の育成では、解説よりも問いが重要になります。例えば世界史の場合、それまでは教員が教科書に沿って出来事の過程を解説していましたが、現在は、教員が出した問いを基に、生徒が資料を集め、出来事の背景を探り、気づきをクラスで共有する形にしています。2013年度から実施している授業評価アンケートでは幸いなことに「わかりやすい」「思考力を発揮する場面がある」「もっと勉強をしたくなる」と答える割合が増えています。思考力を育成する授業への転換で、学ぶ意欲がアップしたのです。

発表と自省を繰り返して メタ認知力を育成

2015年度には県が推進して

いる「学びの変革」の指定校になったこともあり、「総合的な学習/探究の時間」(以下「探究」)の内容についてもブラッシュアップを図っています。

探究で核となっている取り組みは、2016年度に開始した「社会探究PBL」です。これは、高2生を4人程度のグループに分け、1年間をかけて取り組ませるPBLです。地元の呉市が抱える課題について問いを立て、フィールドワークなどで情報を集め分析し、最終的に市議会へ解決策を提案します。教員は基本的に内容に口を挟みません。企業や住民等との交渉も生徒が行っています。

この取り組みの特徴は、外部に活動を報告する機会の多さです。保護者や地域の方々を招いて行うポスターセッション、シンガポールの大学生に向けた英語によるプレゼン、市議会への提案等々…。

相手の感想を聞き、振り返ることによって、主体的学習者に必要なメタ認知力や*2レジリエンスなどが鍛えられます。

評価はルーブリックで行っていますが、人前で話すことが苦手だった生徒が市議会で堂々と発表できるようになるなど、その変化は明らかです。推薦入試などの面接や小論文の練習では、多くの生徒がこの「社会探究PBL」で培ったことをアピールします。

課題は、授業・テスト、探究進路指導の3つがそれぞれ独立して行われていること。これらを統合するカリキュラム・マネジメントを進めていきます。こうした探究的な学びやカリキュラム・マネジメントは大学が先行しており、高校以上に発展しているはずですが、高校3年間の生徒の成長を受け止める入試、さらに引き上げる教育を、大学には期待しています。



校長 大林秀則

おおばやしひでのり ● 広島県立高校で数学を担当。2012年より福山北高校教頭。2014年より大崎海星高校校長。過疎化が進む離島において同校の存続が危惧される中、魅力化プロジェクトを主導し、生徒募集を好転させる。2017年より福山工業高校校長。2019年より現職。

取材・文/見山雄介 撮影/高西知泰

注目! 全県的なプロジェクトにより 課題発見・解決学習を全校に普及

広島県教育委員会は、学校段階が上がるにつれて減退する生徒の学習意欲や、主体的に学ぶ人材を社会が求めている状況などを鑑み、2015年度に「広島版『学びの変革』アクション・プラン」をスタートさせた。知識ベースの学びから資質・能力の育成をめざす主体的な学びに県内の小中高全ての学校教育を変革することが目的だ。

高校では、課題発見・解決学習への変革を全県的なプロジェクトで推進。2015～2017年度の第I期はまず、指定校(24校)での授業モデルの構築と、県内全校で変革推進の核となる教員の養成を行った。授業モデルは、実践事例集を作成して県内全校に普及。2018～2020年度の第II期は、県内全校でカリキュラム・マネジメントと教科指導に関する研修を実施して、変革の校内普及を推進。加えて、研究開発校(9校)で、ルーブリックの開発など、資質・能力の評価に関する研究を行っている。

高校での課題発見・解決学習 推進プロジェクトの取り組み

第I期：2015～2017年度

- 授業モデルの構築と、校内での変革を推進する実践推進リーダー(各校1人)を養成

第II期：2018～2020年度

- カリキュラム・マネジメントと教科研修を通して変革の校内普及を図る
- 資質・能力の評価方法を指定校で研究

*1 (例) 国語：テキストを他者としてとらえ、それに対する自分の考えや意見を、根拠を明確にして表現する力
 地歴公民：社会的現象の持つ意味や事象間の関係性などについて、相対化した知識や概念、資料を根拠に多角的・論理的に説明する力 など
 *2 回復力、しなやかさ